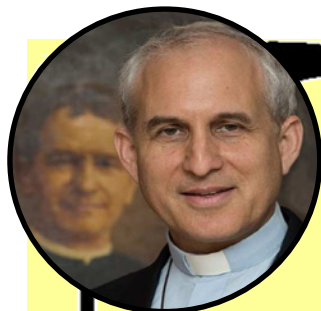


CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.81 - 2015年9月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



青少年司牧と 宣教促進との協同

私たちは今回、第27回総会で私たちに与えられた道筋の深い研究へと招かれています：それは、神秘、預言者、奉仕者の研究です。近年の総会に沿い、そして地域顧問との協力により私たちは青少年司牧と宣教促進との協同、とりわけ宣教ボランティアサービスの水準を深めたいと思っています。

青少年司牧と宣教促進の地域会議の期間中、私たちは個人的な祈りと社会的な祈りの時を分かち合い、次のことに一日のすべてを充てるつもりです。

- ・管区内の協力の経験を省みること。
- ・現在の経験に耳を傾けること。
- ・未来に向けたいくつかの協力の道筋を立案すること。

私たちは、次に示す地域会議の場所と時を皆さんと分かち合うためにも、この機会を利用します。

アフリカ・マダガスカル地域	9月16日-19日	アディスアベバ、エチオピア
南米サウスコーン地域	2015年10月17日-20日	クンバヤ アクアドル
南アジア地域	2015年11月2日-5日	バンガロール インド
東アジア・オセアニア地域	2015年11月10日-13日	ソウル 韓国
地中海地域	2016年2月2日-5日	サンティアゴ・デ・コンポステーラ スペイン
中央・北ヨーロッパ地域	2016年2月9日-12日	ローマ

この地域会議は、私たちが聖霊の働きに信頼することを望む私たちの人生において特別な時です。私たちは、主が与えられる喜びに満たされた心を持って、この使命へ私たちが進むことのできる小道へ聖霊が私たちを導いてくださいますように願います。

神様の祝福が私たちにありますように！

J. Basanes

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

Fabio Attard SDB
Fr. Fabio Attard, SDB
Councillor for Youth Ministry

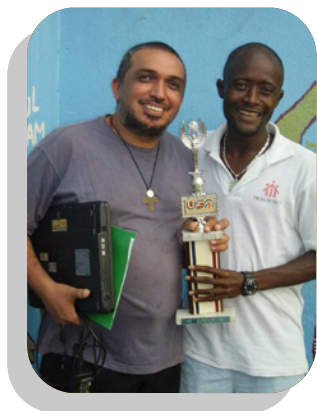
サレジオの宣教の聖性のあかし

列福列聖調査請願者 サレジオ会ピエールルイジ カメロニ神父



ペトロ・リカルドネ総長への手紙の中で、1938年、インドの宣教師である神の僕フランシス・コンヴェルティエーニ（1898-1976）は、福音伝道者としての彼の言葉を次のように記載しています。「私は彼らにイエスを述べ伝えました。救い主イエス。憐れみ深いイエス。私は彼らに十字架について語り、十字架に掛けられたイエスの絵を見せました。私の声は震えており、彼らは涙を流していました。どれほどの喜びが、どれほどの感動が私の心にあったことでしょうか。」

私の国は宣教師を必要としています、私は使命に国境はないことを知りました。



私の国は宣教師を必要としています、私は使命に国境はないことを知りました！
宣教師になるための私の願いには2つの要素があります。1つは、私が自分の人生の成り行きを知るよりもはるか前に、宣教の召命が自分の心の中に、そして気持ちの中に形作られていた、ということだと思います。私の母はレジオ マリエに属しており、カテキズムを学ぶよりも前に、私を連れて母が空腹な人々に食べ物を与え、慰め、病気の人の希望をつなぐようにしていたことを覚えています。まもなく、私はキリスト者になるということは家を離れるということであり、外に出て行き他者と出会い、私たちがわずかに持っているものでも分かち合うことだと理解するようになりました。

2つ目は、私が子供で若かったころ、深遠な理由で私を彼らの人生の見本として選び出した、たくさんの宣教師たちを知るという恵みをいただいたことです。それは私が、配管工、教師、料理人、心理学者、機械工、看護師、音楽家などのスペイン人、イタリア人、ポーランド人、アイルランド人、エジプト人、コロンビア人、アルゼンチン人を見習おうとすることを望んでいたという点においてです。しかし何よりも、彼らはイエスと他者を愛する男性そして女性であり、奉仕するためにすべてを捨てたということです。彼らは祖国を離れ、私

たちと共に生き、嘆きそして笑い、歌いそして祈り、歩きそして成長するためにやってきたのです。彼らの人生をとおして、彼らは福音を、イエスの知らせを私たちと分かち合ったのです。彼らをとおして、私は自分の宣教召命を得て、彼らの人生、良い仕事、犠牲、献身そして忍耐を手本としたいと願いました。私はいつでも彼らが愛したように愛することを望んでいます。

アフリカは、苦しみと悲しみがいつもすぐ近くにある不思議な場所です。多くの若者は生き残り、病気、不正、危険、死の生活に駆り出され続けています。この現実のただ中で、私の最も大きな喜びは神の愛と憐れみ深い働きを発見し続けることであり、私が福音を伝道しようと試みるほど、実際に福音を受け取るのは私自身であるということを知るのでした！

もちろん、多くの人は尋ねます、「ベネズエラも宣教師が必要ですよ。なぜアフリカに行くのですか？」と。これは難しい質問です。確かにベネズエラは、私の愛する所であり、宣教師を必要としています、徐々に私は人生が使命であり、使命には国境はないということを知ることになったのです。そして、私たちの人生は私たちを送ったキリストの呼びかけに基づいたものだということ。私は人々に奉仕することで、どれほど多くの喜びを体験したでしょうか。しかし私は、まだ主を知らない人々が主に出会うことができるように、主が最も遠く離れた人目につかない場所へ行くように、私に求めていることを感じました。

宣教師になることを望むサレジオ会員へ、特に南米のサレジオ会員へ私は言いたいのです。主の宣教の呼びかけ”外国へ”に熱心に耳を傾けましょう。そして、主の御心に私たち自身を委ねましょう！私たちのドン・ボスコがいつも宣教師になることを夢見ていたことを忘れないようにしましょう。みなさんはドン・ボスコの夢をかなえることができます。みなさんを待っている沢山の人がいることを思い出してください！

ウバルディーノ・アンドラーヂ神父
ベネズエラ人、シエラレオネの宣教師



第146回宣教派遣の新宣教師のための研修

第146回宣教派遣の23人の新宣教師のためのオリエンテーション研修が9月2日に始まりました。その研修の最後の活動、そしてそのクライマックスは、9月27日ヴァルドココの扶助者マリアのバジリカで、総長代理、フランチェスコ・チェレーダ神父による宣教十字架の授与をもって迎えられる予定です。

この研修は、新宣教師の存在が効果的で、謙遜で分別のあるものとなるように、新宣教師が必要とする新しい文化を身につける手助けをし、新たに出会う人々の一部となり、開かれた個々の態度、他者を尊敬し信頼する心を発展させるために、新宣教師が出発する前の早急な準備の一部として企画されました。

次の形式はすでに何年にも渡って定められたもので、この研修は2つの地で構成されています。最初はローマの総本部、次はサレジオ会員の興味のある地であるピエドモンテです。研修には3つの核となる構成要素があり、それは、文化人類学、宣教学、そしてサレジオ研究です。この形式は初期的には教育的な体験（価値と宣教に必要な態度を育てる）として意図されており、情報（新しい知識や考えを獲得すること）ではありません。この形式は新宣教師が自身の継続する使命をチェックし、調査し、時にはその使命に対する深みのある理由を発見することに役立ちます。大きな重要性が与えられ、それから個人的な熟考と祈りへ向かい、体験の分かち合いと証の傾聴に向かいます。

第146回宣教派遣の私たちの23人の新宣教師のための研修に、私たちの祈りを添えましょう！



サレジオ会の宣教の意向

第146回サレジオン宣教派遣のために

第146回サレジオン宣教派遣が、サレジオ会社会の全体にわたる召命のために、宣教の精神と熱意を促進することができますように。

私たちの宣教派遣の歴史において、“外国へ”、“外国人へ”の宣教は、常に若いサレジオ会員と伝道の喜びとサレジオ会員の召命のための熱意の中で揺り動かされてきました。私たちが、サレジオ会員宣教師が自ら述べ伝える信仰の明晰な証人であるようにと祈るとき、ドン・ボスコの宣教の精神の具体的な表現が使徒的熱意を揺り動かす、新たなサレジオ会員の召命を呼び起こすように、主に願います。

